

看板事業(モデル事業)

やんちゃキッズの大冒険

1 ねらい

幼児が、様々な生活体験や自然体験を通して、意欲的に物事に取り組む姿勢や人間関係能力を育むとともに、自然体験の大好きな子供に育てる。

2 期日

- ① 夏キャンプ : 平成29年 8月24日(木)～26日(土) 2泊3日
 (夏キャンプボランティア研修 : 平成29年 7月 8日(土)～ 9日(日) 1泊2日)
 (夏キャンプ事前説明会 : 平成29年 8月 5日(土) 日帰り)
- ② 秋キャンプ : 平成29年10月14日(土)～15日(日) 1泊2日
 (幼児期における自然体験活動指導者研修会との連携事業)
- ③ 冬キャンプ : 平成30年 1月20日(土)～21日(日) 1泊2日

3 対象

幼児(年長児)

4 参加人数/募集人数/応募者数

- ① 夏キャンプ : 24名/24名/139名
- ② 秋キャンプ : 47名/48名/ 64名
- ③ 冬キャンプ : 28名/30名/ 63名

5 講師・スタッフ

- ① 夏キャンプ : 法人ボランティア11名 国立立山青少年自然の家職員
- ② 秋キャンプ : 法人ボランティア11名 国立立山青少年自然の家職員
- ③ 冬キャンプ : 法人ボランティア10名 国立立山青少年自然の家職員

6 夏キャンプボランティア研修

参加者 : 法人ボランティア11名

スタッフ : 国立立山青少年自然の家職員

	午前	午後	夜
7月8日(土) 1日目	○オリエンテーション ○キャンプのコンセプト確認 ○アイスブレイク	○沢&トントンの森散策 ○アクティビティ企画① ○野外炊事(炊き込みご飯)	○アクティビティ企画② ○幼児キャンプに関する講義 <不動棟泊>
7月9日(日) 2日目	○野外炊事(朝食) ○おにぎり作り(昼食) ○大日の森散策	○研修のまとめ	

7 後援・協力

富山・石川・新潟各県教育委員会 富山県国公立幼稚園・こども園長会
 富山県私立幼稚園・認定こども園協会 富山県保育士会 富山県民間保育連盟
 北日本新聞社

8 日程

①夏キャンプ

	午前	午後	夜
8月24日(木) 1日目	○はじめのつどい ○班活動・昼食	○キャンプ場探検ゲーム ○入浴 ○野外炊事(夕食)	○夜のいろいろ <不動棟泊>
8月25日(金) 2日目	○昼食作り ○室内ゲーム	○大丸山登山 ○入浴 ○野外炊事(夕食)	○ミニキャンプファイアー <不動棟泊>
8月26日(土) 3日目	○野外炊事(朝食) ○清掃活動 ○自由遊び	○昼食(流しそうめん) ○おわりのつどい	

②秋キャンプ

	午 前	午 後	夜
10月14日(土) 1日目	○はじめのつどい ○グループでふれあいタイム (アイスブレイク) ○昼食	○レンジャーチャレンジ1 「みんなで秋を見付けよう」 ○レンジャーチャレンジ2 「自分の力でやってみよう」 夕食準備・片付け、着替え等	○シュラフ準備 ○絵本タイム <不動棟泊>
10月15日(日) 2日目	○レンジャーチャレンジ3 「元気を満タンにしよう」 体をほぐす体操、朝食作り ○レンジャーチャレンジ4 「お兄さん・お姉さんのチャレン ジゲームをみんなで楽し もう」	○レンジャーチャレンジ5 「最後までがんばろう」 おにぎり作り(昼食)、荷物の整理 ○班タイム ○おわりのつどい	

③冬キャンプ

	午 前	午 後	夜
1月20日(土) 1日目	○はじめのつどい ○グループでふれあいタイム ○昼食	○雪の遊び場作り ○ポトフ作り(夕食)	○ボンファイアー ○就寝準備 ○絵本タイム <エコスクール館泊>
1月21日(日) 2日目	○ピザドッグ作り(朝食) ○雪遊び チューブそりすべり等 ○昼食	○班タイム ○おわりのつどい	

9 参加幼児保護者からの感想

- 想像以上に成長して帰ってきて、何でもしてみようという姿勢が見られたりしてキャンプ以来大人びたなと感じます。
- 家庭では火を使うということがないので、キャンプで火を使って料理をする経験ができたことが楽しくて印象に残っているようです。
- 親と離れても自分自身でやれることがわかり、何に対してでも少し自信がついたように思います。
- ドロドロになった靴を自分で洗うと言い出し驚きました。髪の毛を自分で洗えるようになり、それを見た妹も自分で洗えるようになりました。

10 成果

- 夏キャンプでは、テーマを「空間」とし、子供たち同士が考えて自分たちの場所への気づきを図れるように支援していくようスタッフで共通意識を持ち実施した結果、子供が自分たちの身の回りの整理等、多少であるが実践できていた。
- 秋・冬キャンプでは、ストーリー仕立てにしたことで、子供たちが次の活動への意欲をもつことができた。また活動中に子供たち同士で相談や話合う場面が見られ、人間関係能力の醸成のきっかけとなった。

11 今後の課題

- 幼児期の体験をいかに増やせるかを考えていく必要がある。そのために、決められた時間で子供たちに何ができるのか、何を伝えられるのか、各キャンプでテーマを明確にし、よりよい幼児キャンプを構築していく。

